

記載例

様式第3の5

水銀排出施設設置(使用、変更)届出書

〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇保健所長 殿

届出者 愛媛県西条市〇〇-〇〇
〇〇〇株式会社
代表取締役 愛媛 太郎

大気汚染防止法第18条の28第1項(第18条の29第1項、第18条の30第1項)の規定により、水銀排出施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇〇株式会社 西条工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	愛媛県西条市〇〇-〇〇	※受理年月日	年 月 日
水銀排出施設の種類	1 石炭ボイラー	※審	備考
水銀排出施設の構造	別紙1のとおり。		
水銀排出施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備	考
水銀等の処理の方法	別紙3のとおり。		
参考事項			

・大気汚染防止法施行規則別表第3の3の項番号及び種類を記載
・複数当てはまる場合は、主たる目的のものを記入

- 備考
- 1 水銀排出施設の種類欄には、大気汚染防止法施行規則(以下「施行規則」という。)別表第3の3に掲げる項番号及び名称を記載すること。
 - 2 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
 - 5 施行規則様式第2による受理書の写しを添付し、参考事項の欄に、当該受理書の受理番号及び受理年月日を記載する場合であつて、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が別紙1~3の全部又は一部を添付することを要しないと認めるときは、別紙1~3の全部又は一部を省略することができる。

記載例

別紙 1

水銀排出施設の構

※ばい煙発生施設の届出受理書の写しを提出することで、様式第3の5別紙1～3の全部又は一部を省略できる

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー	
名称及び型式		循環流動層ボイラー ABC型	
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日
使用開始予定年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日
規模	伝熱面積 (m ²)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目のいずれかを記載 ・ ただし、石炭ボイラーは、燃料燃焼能力欄への記入が必要
	燃料の燃焼能力 (重油換算 L/h)	32,000 L/h	
	原料の処理能力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (kVA)		
	焼却能力 kg/h)		

- 備考
- 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
 - 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目について記載すること。
 - 3 水銀排出施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。ただし、施行規則様式第2による受理書の写しを添付する場合であつて、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が構造概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該概要図の添付を省略することができる。

水銀排出施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1号ボイラー				
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	0時～24時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		
	季節変動	通年				
原材料 (水銀等の排出に影響のあるものに限る。)	種類			<ul style="list-style-type: none"> ・代表値や平均値を記載(幅記載も可) ・事業者において水銀含有量の測定が不可能な場合は、空欄でも可。 (例：梱包された状態での処理が求められる感染性廃棄物) 		
	使用割合					
	原材料中の水銀等含有割合					
	1日の使用量					
燃料 (水銀等の排出に影響のあるものに限る。)	種類	石炭(瀝青炭)				
	燃料中の水銀等含有割合	0.01 mg/kg				
	通常の使用量	500 t/d				
	混焼割合	100%				
排出ガス量 (m ³ /h)		湿り	最大 340,000	通常 315,000	最大	通常
		乾き	最大 280,000	通常 260,000	最大	通常
排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%				
水銀濃度 (μg/m ³)	全水銀	0.34 μg / Nm ³		<ul style="list-style-type: none"> ・乾きガス中の濃度(平均的な濃度) ・水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度。 ・設置の届出の時点で実測値が得られない場合は設計値等でも可(ただし、定期測定の結果と大きく異なる場合は変更届を提出)。 		
	ガス状水銀	0.3 μg / Nm ³				
	粒子状水銀	0.04 μg / Nm ³				
参考事項						

備考 1 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧(標準状態)における量に、水銀濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとす。

2 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とし、平常時の平均的な濃度を記載すること。

3 水銀濃度は、水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度とすること。

4 参考事項の欄には、水銀等の排出状況に著しい変動がある施設についての一工程の排出量の変動の状況、水銀等の排出抑制のために採っている方法等を記載すること。

水銀等の処理の方法

水銀等の処理施設の工場又は事業場における施設番号			系統 1				
処理に係る水銀排出施設の工場又は事業場における施設番号			1号ボイラー				
水銀等の処理施設の種類、名称及び型式			ろ過式集じん機 BBB型				
設置年月日			年 月 日	年 月 日			
着手予定年月日			平成〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日			
使用開始予定年月日			平成〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日			
処理能力	排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大 340,000 通常 315,000	最大	通常		
		乾き	最大 280,000 通常 260,000	最大	通常		
	排出ガス温度 (°C)	処理前	160°C				
		処理後	145°C				
	排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%				
	水銀濃度 (µg/m ³)	全水銀	処理前	3.8 µg / Nm ³			
			処理後	0.34 µg / Nm ³			
		ガス状水銀	処理前	3.0 µg / Nm ³			
			処理後	0.30 µg / Nm ³			
		粒子状水銀	処理前	0.80 µg / Nm ³			
処理後			0.04 µg / Nm ³				
捕集効率 (%)	全水銀	91%					
	ガス状水銀	90%					
	粒子状水銀	95%					
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		0時～ 24時 時間/回 回/日 28日/月	時間/回 回/日 日/月			
	季節変動		通年				

・施設の構造上の理由などにより測定が不可能な場合においては、「処理前」「捕集効率」の欄は空欄でも可。
 ・既存施設で水銀濃度の測定実績が無い場合は、「処理後」欄が空欄でもよい。
 ・ただし、施行後の定期測定結果を踏まえて、変更届を提出すること。

- 備考
- 1 水銀排出施設において発生する水銀等を排出口から大気中に排出する前に処理するための施設（集じん機等）について、記載すること。
 - 2 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
 - 3 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、水銀濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
 - 4 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
 - 5 水銀等の処理施設の構造図及びその主要寸法を記入した概要図を添付すること。ただし、施行規則様式第2による受理証の写しを添付する場合であつて、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が当該構造図及び概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該構造図及び概要図の添付を省略することができる。